

## 学 会 記 事

## I. 運営委員会報告(議事のみ)

2001年10月5日に岩手県盛岡市のいわて国保会館において開催。

- ①選挙制度検討小委員会(林一六委員長)の答申について審議した。
- ②学会賞創設検討小委員会(奥田重俊委員長)の答申について審議した。
- ③運営委員会内規(案)を審議し、修正の後これを承認した。
- ④2001年度総会の議事について審議した。

## II. 編集委員会報告

2001年10月5日に岩手県盛岡市のいわて国保会館において開催。

## III. 企画委員会報告

2001年10月5日に岩手県盛岡市のいわて国保会館において開催し、シンポジウム開催について審議した。

## IV. 2001年度総会報告

2001年10月6日に岩手大学教育学部において2001年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

## A. 報告事項

## 1. 事務局(庶務関係)

- ①2001年9月17日現在の会員数は522名である。
- ②2001年3月28日に第48回日本生態学会大会の自由集会として群落談話会を開催した。演者は中西弘樹氏、演題は「九州西部の植生地理-植物の分布を中心として-」。
- ③運営委員会のメーリングリストを作成した。アドレスは socveg@cc.tuat.ac.jp

## 2. 事務局(編集関係)

- ①2000年10月から2001年9月までの間に植生学会誌17巻2号(原著論文3編, 短報2編, 頁数47頁)と同18巻1号(原著論文4編, 短報1編, 頁数44頁)を発行した。
- ②2000年10月6日から2001年10月4日の期間の投稿論文数は15編。
- ③2001年3月に植生情報第5号(頁数80頁)を発行した。

## B. 承認事項

1. 2000年度収支決算(別掲1)
2. 2001年度収支予算(別掲2)
3. 会則の改正(別掲3)
4. 植生学会会長・運営委員選挙施行細則の改正(別掲4)
5. 植生学会第7回大会は2002年10月18日から20日(予定)に筑波大学で開催する。

## C. その他

1. 第7回大会開催地となる筑波大学の中村徹氏より、多数会員の参加が要請された。

## 別掲1. 植生学会2000年度収支決算

		(単位:円)			
収入の部		予 算	決 算	差 異	備 考
前期繰り越し		2,342,684	2,342,684	0	
会費		2,848,000	2,904,000	-56,000	
雑収入	広告料など	300,000	381,550	-81,550	
	利息	1,000	208	792	
計		5,491,684	5,628,442	-136,758	
支出の部					
本誌刊行費	850,000円×3回	2,550,000 *	1,686,405	863,595	*前年度からの繰り延べ分を含む
情報誌刊行費	300,000円×1回	300,000 *	238,350	61,650	*1999年度分
送料		250,000	119,758	130,242	
学会事務局経費		400,000	458,367	-58,367	
編集事務局経費		150,000	86,299	63,701	
情報誌編集費		10,000	4,225	5,775	
企画委員会経費		100,000	0	100,000	
大会補助費		100,000 *	100,000	0	*第5回大会分
小委員会経費	100,000×2	200,000	0	200,000	
予備費		1,431,684	0	1,431,684	
計		5,491,684	2,693,404	2,798,280	
収支差額(繰り越し)		0	2,935,038	-2,935,038	

## 別掲2. 植生学会2001年度収支予算

		(単位:円)			
収入の部		2001年度	2000年度	差 異	備 考
前期繰り越し		2,935,038	2,342,684	592,354	
会費		3,020,000	2,848,000	172,000	
雑収入	バックナンバーなど	300,000	300,000	0	
	利息	1,000	1,000	0	
計		6,256,038	5,491,684	764,354	
支出の部					
本誌刊行費	850,000円×2回	1,700,000	2,550,000 *	-850,000	*前年度からの繰り延べ分を含む
情報誌刊行費	300,000円×1回	300,000 *	300,000	0	*2000年度分
送料		250,000	250,000	0	
学会事務局経費		400,000	400,000	0	
編集事務局経費		150,000	150,000	0	
情報誌編集費		10,000	10,000	0	
企画委員会経費		100,000	100,000	0	
大会補助費		100,000 *	100,000	0	*第6回大会分
小委員会経費	100,000×2	200,000	200,000	0	
予備費		3,046,038	1,431,684	1,614,354	
計		6,256,038	5,491,684	764,354	

## 別掲3. 植生学会会則改正条項

旧	新
<p>第3条 「事業」 本会はその目的を達成するために以下の事業を行う。</p> <p>1) 会誌 植生学会誌(Vegetation Science)の刊行</p> <p>2) 学術集会の開催</p> <p>3) その他本会の目的を達成するために必要な事項</p> <p>第9条 第9条 本会に次の役員をおく。</p> <p>① 会長1名, ② 運営委員12名, ③ 幹事長1名, ④ 幹事3名(庶務, 会計, 編集), ⑤ 会計監事2名, ⑥ 編集委員長1名, ⑦ 編集委員若干名, ⑧ 専門委員会委員長各1名, ⑨ 専門委員若干名</p> <p>第10条</p> <p>2) 運営委員は全国から正会員の互選によって選ばれた全国選出委員5名および北海道, 東北, 関東, 中部, 近畿, 中国・四国, 九州・沖縄の各地区居住の正会員の互選によって選ばれた地区選出委員各1名とする。</p> <p>4) 幹事長, 幹事, 会計監事および編集委員長は会長が運営委員会に諮って委嘱する。</p> <p>5) 編集委員は編集委員長が指名する。</p> <p>6) 専門委員は専門委員会委員長が指名する。</p> <p>7) 役員任期はいずれも3年とし, 再任を妨げない。</p> <p>第12条 「運営委員会」 運営委員会は会長, 運営委員, 編集委員長および幹事長をもって構成し, 会長が議長となる。運営委員会は会の運営方針について審議する。</p>	<p>第3条 「事業」 本会はその目的を達成するために以下の事業を行う。</p> <p>1) 会誌 植生学会誌 (Vegetation Science) の刊行</p> <p>2) 学術集会の開催</p> <p>3) 会員の表彰</p> <p>4) その他本会の目的を達成するために必要な事項</p> <p>第9条 本会に次の役員をおく。</p> <p>① 会長1名, ② 運営委員若干名, ③ 幹事長1名, ④ 幹事3名(庶務, 会計, 編集), ⑤ 会計監事2名, ⑥ 編集委員長1名, ⑦ 編集委員若干名, ⑧ 専門委員会委員長各1名, ⑨ 専門委員若干名</p> <p>第10条</p> <p>2) 運営委員は全国から正会員の互選によって選ばれた全国選出運営委員5名および北海道, 東北, 関東, 中部, 近畿, 中国・四国, 九州・沖縄の各地区居住の正会員の互選によって選ばれた地区選出運営委員若干名(地区正会員数が99名以下の場合には定員1名とし, 100名を越えるごとにさらに1名ずつの定員を配する)とする。</p> <p>4) 幹事長, 編集委員長および専門委員会委員長は全国選出運営委員の中から会長が選任し, 運営委員会に諮って委嘱する。</p> <p>5) 庶務幹事, 編集幹事, 会計幹事および会計監事は会長が運営委員会に諮って委嘱する。</p> <p>6) 編集委員は編集委員長が指名する。</p> <p>7) 専門委員は専門委員会委員長が指名する。</p> <p>8) 役員任期はいずれも3年とし, 会長および運営委員は連続三期の再任を妨げる。</p> <p>第12条 「運営委員会」 運営委員会は会長と運営委員をもって構成し, 会長が議長となる。運営委員会は会の運営方針について審議する。</p>

## 別掲4. 植生学会会長・運営委員選挙施行細則改正条項

旧	新
<p>第3条</p> <p>3) 会長選挙用紙には1名の氏名を, 運営委員選挙用紙には, 全国選出運営委員については5名の氏名を, また地区選出運営委員については投票者の居住地区(会員名簿住所による)の1名を記入する。</p> <p>4) 会長選挙において, 会長は有効最多票を得た者を当選者とする。最多票で同得票数の者が複数のときは, 年少者を当選者とする。</p> <p>5) 運営委員選挙において, 運営委員は有効票順に上位から当選者とし, 末位に同得票数の者があるときは年少者を当選者とする。</p> <p>6) 同一人が会長と全国選出運営委員および/または地区選出運営委員に当選した場合, その者は会長となり, 全国選出運営委員および/または地区選出運営委員にはそれぞれ次点者を繰り上げる。</p> <p>7) 同一人が全国選出運営委員と地区選出運営委員の両方に当選した場合, その者は全国選出運営委員となり, 地区選出運営委員にはその地区の次点者を順次繰り上げる。</p> <p>第4条 運営委員に欠員が生じた場合は, 次点者を順次繰り上げて当選者とし, その任期は前任者の残任期間とする。</p> <p>第5条 会長および運営委員選出の手續きに関するその他の事項は, 選挙管理委員会の判断により措置するものとする。</p>	<p>第3条</p> <p>3) 会長選挙用紙には1名の氏名を, 運営委員選挙用紙には, 全国選出運営委員については5名の氏名を, また地区選出運営委員については地区(会員名簿住所による)ごとに定められた人数の氏名を記入する。ただし, 地区選出運営委員欄に記入した候補者名と全国選出運営委員欄に記入した候補者名は重複しても構わない。</p> <p>4) 北海道, 東北, 関東, 中部, 近畿, 中国・四国, 九州・沖縄の各地区ごとに選出される運営委員の人数は, 投票締め切り日の2ヶ月前の時点における各地区的正会員数をもとに会則にしたがって決定する。</p> <p>5) 会長候補者, 運営委員候補者および選挙人は投票締め切り日の2ヶ月前の時点での名簿住所にもとづき, 地区の所属が決定する。</p> <p>6) 会長選挙において, 会長は有効最多票を得た者を当選者とする。最多票で同得票数の者が複数のときは, 年少者を当選者とする。</p> <p>7) 運営委員選挙において, 運営委員は有効票順に上位から当選者とし, 末位に同得票数の者があるときは年少者を当選者とする。</p> <p>8) 同一人が会長と全国選出運営委員および/または地区選出運営委員に当選した場合, その者は会長となり, 全国選出運営委員および/または地区選出運営委員にはそれぞれ次点者を繰り上げる。</p> <p>9) 同一人が全国選出運営委員と地区選出運営委員の両方に当選した場合, その者は全国選出運営委員となり, 地区選出運営委員にはその地区の次点者を順次繰り上げる。</p> <p>第4条 地区選出運営委員が他地区に移動したときは運営委員の任を解く。</p> <p>第5条 運営委員に欠員が生じた場合は, 次点者を順次繰り上げて当選者とし, その任期は前任者の残任期間とする。</p> <p>第6条 会長および運営委員選出の手續きに関するその他の事項は, 選挙管理委員会の判断により措置するものとする。</p>

## V. 植生学会第6回大会報告

植生学会第6回大会が, 2001年10月5日から7日にかけて岩手大学において開催された(下記日程)。一般講演では43題の発表が行われた。参加者は予約申込者112名, 当日参加者25名の計137名であった。

- 10月5日: 企画委員会, 編集委員会, 運営委員会  
 10月6日: 一般講演, 総会, 懇親会  
 10月7日: エクスカーション(岩手県胆沢町)

一般講演は以下のとおりであった。

- A01 大野啓一(横浜国大・院・環境情報), アイアシ群集について  
 A02 宮崎卓・星野義延・福嶋司(東京農工大・農), コジイ・クロバイ群集の植物社会学的再検討

- A03 雷耘・大野啓一(横浜国大・院・環境情報), ゴマギー・ハンノキ群集とムクノキ・エノキ群集の種組成と立地  
 A04 黒田有寿茂・向井誠二・豊原源太郎(広島大・院・理)・池田誠慈(京都市大・院・人間・環境), 宮島における生残アカマツ二次林の植物社会学的研究  
 A05 黒田有寿茂(広島大・院・理)・池田誠慈(京都市大・院・人間・環境)・向井誠二・豊原源太郎(広島大・院・理), 宮島における森林植生の遷移に関する植物社会学的研究  
 A06 吉川正人・福嶋司・星野義延(東京農工大・農)・金文洪(済州大・自然科学), 韓国・鬱陵島の森林植生の種組成と植生地理学的特徴  
 A08 杉田久志(森林総研・東北), 上越山地を中心とする山域の亜高山帯林における樹種の優占・垂直配列パターン

- ンの地理的変異
- A09 平吹喜彦・會田憲之(宮城教育大・理科教育), 自鏡山温帯交林における高い景観・植物種多様性とその存在機構の検出
- A10 Kriangsak Sri-ngernyuang (Grad. Sch. Sci., Osaka City Univ.)・Mamoru Kanzaki (Grad. Sch. Agr., Kyoto Univ.)・Takashi Mizuno・Hideyuki Noguchi (Grad. Sch. Sci., Osaka City Univ.)・Sakhan Teejuntuk・Chettha Sungpalee (Fac. Forest., Kasetsart Univ.)・Masatoshi Hara (Nat. Hist. Mus. Inst., Chiba)・Takuo Yamakura (Grad. Sch. Sci., Osaka City Univ.)・Pongsak Sahunalu・Pricha Dhanmanonda (Fac. Forest., Kasetsart Univ.)・Sarayudh Bunyavejchewin (Silv. Res. Div., Royal Forest Dept.). Habitat differentiation of Lauraceae species in a tropical lower montane forest of Northern Thailand
- A11 石原修一・川西基博(横浜国大・院・環境情報)・渡辺亮(横浜国大・工・研)・田中伸治(岐阜大・院・流域環境)・藤本潔(南山大・総合政策), 奄美大島住用川マングローブ林における植生の帯状配列と立地
- A12 持田幸良・石原修一・石井智陽(横浜国大・教育人間)・横山一郎(三崎高校)・藤本潔(南山大・総合政策)・宮城豊彦(東北学院大)・馬場繁幸(琉球大), 分布北限域(西表島)と中心域(タイ, ベトナム)に成立するマングローブ林の比較研究 I. 群落構造とその立地
- A13 橘ヒサ子・植野真樹・斉藤雅彦(北海道教育大・旭川)・佐藤雅俊(帯広畜産大・畜産環境), 北オホーツク浅茅野湿原におけるアカエゾマツ林の組成と構造
- A14 川西基博・菊池多賀夫・大野啓一(横浜国大・院・環境情報), 上高地古池沢沖積錐における林床植生の分布特性
- A15 永松大・小南陽亮・佐藤保・齊藤哲(森林総研・九州), 宮崎県綾照葉樹林における林分構造と地形要因
- A16 岸田章一・出口博則(広島大・院・理), コジイ林域の二次林の遷移段階と表層地質との関係
- A17 澤田佳宏(岐阜大・流域環境)・武田義明(神戸大・発達科学), 遠州海岸における海浜植生と海浜幅の関係
- A18 大森威宏(群馬県立自然史博物館), 青森県におけるヤチヤナギの分布とハビタット
- A19 沖津進(千葉大・園芸), 南極昭和基地周辺に分布する蘚類群落の構造と更新動態
- A20 橘ヒサ子(北海道教育大・旭川)・佐藤雅俊(帯広畜産大・畜産環境)・新庄久志(釧路国際ウェットランドセンター), 群馬岳湿原の植生
- A21 周進・橘ヒサ子(北海道教育大・旭川), Land use changes in Sarobetsu Mire, Hokkaido, since 1898
- A22 林一六(筑波大・菅平高原実験センター), 世界の植物群落分類体系
- B01 上條隆志(筑波大・農林)・加藤 拓(筑波大・生命)・島田和則(森林総研)・高田 裕(筑波大・環境)・松永壮太(筑波大・資源), 三宅島2000-2001年噴火が植生に与える影響
- B02 津田智・澤田佳宏(岐阜大・流域環境)・高橋康夫・笠原久臣・後藤晋(東京大・北海道演習林)・安島美穂(東京大・院・農学生命), 北海道富良野における1914年の山火事による焼失地の植生
- B03 八木健爾(神戸大・院・総合人間)・武田義明(神戸大・発達科学)・赤松弘治((株)里と水辺研究所), 淡路島におけるウバメガシ二次林の遷移
- B04 島田和則(森林総研)・勝木俊雄(森林総研・多摩), 都市近郊林の放置された気象害跡地における再生林の成立過程
- B05 大野啓一(千葉県立中央博物館)・星野義延(東京農工大・農), 過去17~20年に生じた奥多摩地方の群落組成の変化-とくにニホンジカの被食圧との関係について-
- B06 永見直樹(筑波大・環境)・上條隆志(筑波大・農林)・菊池 健(八丈ビジターセンター), 八丈小島の植生
- B07 長島康雄・横澤秀夫・平吹喜彦(宮城教育大・院・教育)・大柳雄彦((株)宮城環境保全研究所), 老齡防潮林への鳥散布樹種の侵入
- B08 山崎俊哉・丸井英幹・梅原徹(環境設計(株)), 森林表土まきだし15年後の回復植生
- B09 黒木志穂子・持田幸良(横浜国大・教育人間), ミズナラ二次林下に生育するヒメイチゲの分布特性(2)
- B10 蛭間啓(東京農工大・院・連合農)・福嶋司(東京農工大・農), 東日本の冷温帯域における林床生の多年生広葉草本種の挙動
- B11 持田誠・富士田裕子(北海道大・北方生物圏フィールド科学センター植物園)・高橋英樹(北海道大・総合博物館), 林間放牧地のマルミノウルシについて
- B12 馬場明子・大野啓一(横浜国大・院・環境情報), 河辺に生育する草本植物の発芽特性
- B13 松村俊和(兵庫県・宝塚農林振興事務所), 淡路島北部地域における圃場整備地と非整備地との水田畦畔法面植生の比較
- B14 中西正(豊橋市立豊橋高校), スマガヤの器官別栄養配分変化
- B15 菅原裕子(高知大・院・理)・石川慎吾(高知大・理・自然環境)・鎌田磨人(徳島大・工・建設)・荒木 悟・國井秀伸(島根大・汽水研), 徳島県吉野川下流域におけるイセウキヤガラ個体群の動態
- B16 目黒聡・滝口政彦(仙台第一高校), ヒメバイカモの分布と生活史
- B17 櫻村利道, 福島県中山風穴の冷却機構について
- B18 中西弘樹(長崎大・教育・生物), ハマボウ生育地の保全の現状と問題点
- B19 高木朝子(筑波大・環境科学)・上條隆志(筑波大・農林)・小川みふゆ(森林総研)・荒木眞之(筑波大・農林), 栃木県栗山村の採草地植生とその現状
- B20 桑原佳子((社)大分野生生物研究センター), 久住高原における草原の保全・復元の試み(第2報)
- B21 村松篤・小西道子・星野義延(東京農工大・農), 多摩川河川堤防植生の刈り取り管理
- B22 三浦修(岩手大・教育・地理)・竹原明秀(岩手大・人文社会・生物), 平野の農村にみられる屋敷林の類型とその分布

## 訂 正

第18巻1号「Hiroki, S.: Invasion of *Quercus glauca* and *Castanopsis cuspidata* seedlings into secondary forests on the wetern slope of Mt.Miroku and adjacent hill in Kasugai Ctiy, Ainchi Prefecture, Japan」のタイトルに誤りがありましたので次のように訂正いたします。

p.31のタイトル, および裏表紙英文目次

誤 *Quercus variabilis*  
正 *Quercus glauca*